



『孟子』 についての対話

中川, 雅道

(Citation)

研究紀要 : 神戸大学附属中等 論集, 8:33-38

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100487687>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100487687>



実践報告

『孟子』についての対話 Dialogue on Discourses of Mencius

中川 雅道
NAKAGAWA Masamichi

本稿は、漢文の授業の実践報告である。孔子、孟子のテキストを読解し、考えを深め、その経験をもとにして問いを立てた。子どものための哲学のスタイルで「自分が愛情を込めて育てた豚を食べられるか？」という現代の動物倫理学につながる議論を行い、様々な意見について考えを交わした。

This report is a lecture plan on Chinese classics. We read some texts from writings of Confucius and Mencius. From these experiences children raised their questions. In the style of philosophy for children, we discussed about following question concerning modern animal ethics. "Can we eat meats of pigs which we raised by ourselves?"

キーワード：子どものための哲学、哲学対話、国語教育、言語文化、『孟子』

Key words: philosophy for children、philosophical dialogue、Japanese language education、Language culture、Discourses of Mencius

本稿は、中学校3年生の国語の授業（中等教育学校の特例により「言語文化」を1単位移行）で行った単元の実践報告である。単元構成や教材、学習方法については次ページ以降の学習指導計画にまとめた。具体的な対話の様子や、ワークシートの分析、最終成果としてのレポートの様子などは、別の稿に譲りたい。ここでは、この単元を構想するに至った経緯を簡単に振り返っておきたい。

本単元は、科学研究費基盤研究（C）「哲学資源としての漢文教材および学び方の開発に関する基礎的研究」の最終成果の一つとして構想されたものである。主体的、対話的で深い学びが目指される教育現場の中で、漢文教育の場面では書き下し文の作り方を学ぶ授業が中心になることが多く、古典教育が訳読に終始しているという批判の声も多い。本単元は、漢文に含まれる「哲学資源」を活用して、子どもたちとの対話を行い、思考を深めることを目指して構想された。

現場教員、共同研究者として中国哲学の研究結果から授業を作成し、哲学対話、子どものための哲

学のやり方を用いて、教室で子どもたちと問いを立てて、対話することに取り組んだ。子どもたちからは、敬遠しがちであった漢文の内容が現代に繋がり、現代への警鐘として読解できることの喜び、驚きの声が多く聞かれた。白文読解の指導の場面ではまだまだ課題が残るものの、授業展開の一事例となったと考えている。

授業公開を行ったクラスでは、孔子、孟子の考えを読み、深めていく中で「自分が愛情を込めて育てた豚を食べられるか？」という現代の動物倫理学で議論されている問いへと辿り着いた。対話の中では子どもたちが、クラスメートの様々な考えを聞きながら、盛んな議論が行われた。

現場型研究、研究の現場への還元ということが叫ばれて久しいが、中国哲学研究者、中国学研究者、国語教育研究者たちが集い、ひとつの目的のもとに議論を重ね、学校現場に還元できる成果として、ひとつの完成を見たことは、現場型研究のモデルの一つだと言えるだろう。

第3学年2組 国語科学習指導計画 『孟子』についての対話

指導者 中川 雅道

日時 2023年11月20日(月) 公開授業(13:10~14:00)

場所 3年2組教室

1 単元の設定にあたって

(1) 生徒について(「意識調査をもとに」)

単元実施に先立ち行った事前調査の結果から、漢文教材についてはそれほど興味を感じていないが、子どものための哲学 p4c については多くの生徒が肯定的に捉えていることがわかる。

＜アンケート結果＞(2023年10月10日/対象:3年生/回答生徒数:111人)

質問1:漢文教材を学ぶことに興味はありますか?
とてもある 5名、どちらかといえばある 31名、どちらとも言えない 18名、どちらかといえばない 43名、全くない 13名
質問2:子どものための哲学 p4c の対話の時間は好きですか?
とても好き 25名、どちらかといえば好き 61名、どちらとも言えない 14名、どちらかといえば好きではない 7名、好きではない 3名
質問3:子どものための哲学 p4c で考えが深まると思いますか?
とても深まる 36名、どちらかと言えば深まる 62名、どちらとも言えない 7名、どちらかと言えば深まらない 3名、深まらない 2名

(2) 学習方法について(「子どものための哲学」と「哲学者の教育学」について)

子どものための哲学 philosophy for children (= p4c) と呼ばれる教育を実践する。p4c の中でも特に Hawai'i で育まれてきた、教室の知的な安全性 intellectual safety (すべての仲間たちへの敬意が守られる限りで、どんな発言でも、どんな質問でもしていい) を重視する方法で対話を行う。教員も含め、クラスのコミュニティ全員で輪になって座り、コミュニティボールと呼ばれる毛糸玉を用いて「ボールを持っている人が話す」というルールで話し合う。発言をパスする権利(考えがまとまっていない時には無理に話さなくてもいい)も認め、We are not in a rush (急がなくてもいい)ことを大切にして話し合う。

p4c Hawai'i では「小さな哲学 little p」という考えが大切にされている。固有の内容と活動をもつ学問領域としての「大きな哲学 Big P」(多くは歴史上の哲学者の残した文章の文献研究)とは異なり、小さな哲学は、私たちが世界を理解するためにもつ信念を内容とし、それらの信念をより大きなコミュニティの中での相互作用の中で再検討することが活動になる。その小さな哲学を教育現場で実践するためには以下の6つのことが重要である(哲学者の教育学 The Philosopher's Pedagogy より)

1. 教員自身が吟味された生を生きる
2. 教育とは教員と生徒とが共有する活動である
3. 内容は、参加者の信念、経験と教材、主題との相互作用である
4. 哲学とは、教育の一般理論のことである
5. 哲学を教室での生き生きとした実践にすること(セーフティ、コミュニティボール、など)
6. 教室を評価するときに、現在の評価基準に挑戦すること

(3) 教材について

本単元は、漢文教材を読む経験を、哲学資源をアクティブに学ぶ方法として再構築する研究の実践例としての位置づけで行う。上記した学習方法に従いつつ、大括りには「性善」についてのヒントとして孔子、孟子の考えを読み、テキストの内容を吟味することを目指す。

「論語」からは、正直さについて、孔子が一般的な理解とは異なった概念を提示している箇所を扱う。一見すると儒教的とは思われない「父のために子は隠す」という考えは、さまざまな思考を刺激する。

「孟子」からは、性善の端緒としての「子が井戸に落ちる」時に感じる「人に忍びざるの心」を扱った後に、「王が牛を愛しむ」ことが為政者の徳であると孟子が断じる場面を扱う。いずれも常識的見解とは異なった考えが含まれるので、さまざまな問いを触発するだろう。

外国語としての漢文を、漢字の意味を調べることで再生するというやり方でこれらの漢文を扱う。少し時間のかかる活動にはなるが、丁寧に白文から理解することで、読む活動を充実させることができる。

2 単元の構成

(1) 単元の学習目標

孔子、孟子の言葉をヒントにして、考えを深めることができる

(2) 単元の位置

本単元は、「言語文化」の一部として実施する。内容としては、高度なものも含むため「古典探求」で扱う可能性もある。動物倫理との関わりという意味では、「現代の国語」「論理国語」との混合的な単元だと考えることもできる。

(3) 単元のねらい

- ① 漢文教材の内容を読み、問い立てて対話する活動を通して、教材に対して自分なりの問いを向け、考えを深めていく力を養う。

②資質・能力育成の重点

I 知識・技能	II 思考力・判断力・表現力	III 学びに向かう力、人間性など
古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること（言語文化）。	A 話すこと・聞くこと 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること（現代の国語）。 B 書くこと 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること（現代の国語）。 C 読むこと 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること（言語文化）。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う（高校・国語・目標）。

(4) 単元の展開と評価（全19時間）

時	各時の主題	各時の問いと主な活動	各時のねらい(評価の場面)	評価の観点
	事前調査	漢文学習についての事前調査		
第1次 1時	「直躬」を読む	『論語』（子路、十八）に登場する正直者の躬についての文章を読む	文章の内容を解釈する	C
2時	「直躬」から問いを立てる	前時の経験から問いを立てる	解釈から、さらに考えたいことを問いの形にする	A
3時	p4c「罪になりそうでならないギリギリのラインとは？」	問いについて対話を行う 以下は他クラスの問い 「女子の言う『かわいい』は本当なのか？」 「戮必要乎（死刑は必要なのか？）」	話を聴きながら自分の考えを深める	A
第2次 1～2時	「不忍人之心」を読む	『孟子』（公孫丑）に登場する人に忍びざるの心についての文章を読む	文章の内容を解釈する	C
3時	「不忍人之心」から問いを立てる	前時の経験から問いを立てる	解釈から、さらに考えたいことを問いの形にする	A
4時	p4c「孟子の観点以外に人間の性格上の問題点はあるのか？」	問いについて対話を行う 以下は他クラスの問い 「自ら命を断とうとしている人を止める？」 「自分の人生で一番大切なものは仁、義、礼、智のどれか？」	話を聴きながら自分の考えを深める	A
第3次 1時	テキストを引用して考える	ワークシートに基づいて、経験から考えることとテキストから考えることの違いを理解し、これまでの問いについて両方の例を出す	テキストから引用して考える 経験とテキストの違いを考える	C
2時	発表する	前時の内容を発表することができる	テキストから引用して考える 経験とテキストの違いを考える	A
第4次 1～2時	「君子遠庖厨」を読む	『孟子』（梁恵王）に登場する、牛に感情移入する文章を読む	文章の内容を解釈する	C
3時	「君子遠庖厨」から問いを立てる	前時の経験から問いを立てる	解釈から、さらに考えたいことを問いの形にする	A
4時 (本時)	p4c「自分が愛情を込めて育てた豚を食べられるか？」	問いについて対話を行う 「君子が殺してもギリ認めるのはどんな動物か？」 「飢餓状態の時に、家族、友達の肉を出されたら食べるか？」	話を聴きながら自分の考えを深める	A
第5次 1時	動物倫理を読む	『マンガで学ぶ動物倫理』の動物実験、食肉についてのマンガと説明文を読む	マンガ、文章の内容を解釈する	B
2時	動物倫理についての問いを立てる	前時の経験から問いを立てる	解釈から、さらに考えたいことを問いの形にする	A
3時	p4c「何に食べられたいか？」	問いについて対話を行う 「日本でペットショップを廃止すべきか？」 「なぜ牛、豚、鶏は家畜になったのに、犬、猫はペットになったのか？」	話を聴きながら自分の考えを深める	A

4～6 時	動物倫理レポート 作成	孟子の言葉「是以君子遠庖厨也」は「動物倫理について考え、解決していかなければならない」という考えに反しているように読むことができます。あなたはどのように解釈しますか。動物倫理についての事例を調べ、レポートを作成。	孟子の解釈、動物倫理の事例から、レポートを書くことができる	B
	事後評価	ワークシート、レポートの相互評価など	ワークシート、レポートを相互評価できる	C

(5) 評価の観点

- I 知識・技能 III 学びに向かう力・人間性など は全時に含まれる
II 思考力・判断力・表現力 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むことを示す

3 本時の学習（4次4時）

(1) 本時の主 題 子どものための哲学

(2) 本時のねらい 問いについて考え、自分なりに考えを深めることができる。

	I 知識・技能	II 思考力・判断力・表現力	III 学びに向かう力、人間性など
	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。	A 話すこと・聞くこと 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

(3) 教材について・方法について

孟子を読み、クラスで立てた問いについて対話する。

(4) 本時の展開

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
0	問い、対話のルールの確認	○問いを立てた人が意図を説明。対話のルールを再確認する。	○問いの意味を明確にしておく。
5	問いについての対話	○コミュニティボールを用いて、問いについての考えを話し、他の人の考えを聴く。	○教員自身も対話に参加し、自分なりに考えを深める。 ○意味、理由、例、推論、前提といった論理的な展開に注意し、必要があれば質問する。
45 50	ワークシート記入	○対話の内容を振り返り、記入する。	○対話の中で気になって発言がある場合は個別に声をかける。

(5) 評価の目安

A（十分に満足できる）	B（おおむね満足できる）
他の人の考えを聴き、原文の内容について考え、自分なりに内容を深めることができる。	他の人の考えを聴き、自分なりに考えを深めることができる。

【参考資料】

伊勢田哲治、なつたか『マンガで学ぶ動物倫理』化学同人、2015年。

井波律子『完訳論語』岩波書店、2016年。

宇野精一『孟子 全訳注』講談社、2019年。

小路口聡『『孟子』公孫丑上篇「人皆有不忍人之心」章を読む：哲学資源として漢文を「読む」』『白山中国学』、2021年。

小路口聡『『孟子』梁恵王上篇「君子遠庖厨」章を読む：哲学資源として漢文を「読む」(2)』『白山中国学』、2022年。

Amber Strong Makauau and Chad Miller, *The Philosopher's Pedagogy, Educational Perspectives*, University of Hawai'i at Mānoa, 2012.

使用した漢文の書き下し文を、以下に示す（生徒用資料は白文）。

葉公、孔子に語^つげて曰く、我が党^みに躬^{なお}を直くする者有り。その父、羊^{ぬす}を攘^{しこう}む。而^しして子は之^{しょう}れを証^{しょう}す。孔子曰く、吾が党の直き者は、是に異なる。父は子の為に隠し、子は父の為に隠す。直きこと其の中に在り（『論語』子路、十八）。

人皆、人に忍^{しの}びざるの心有りと謂^いう所以^{ゆえん}の者は、今人^{たち}乍^{まじ}ち孺^し子の将^{まさ}に井^{せい}に入らんとするを見れば、皆怵^{じゆう}惕^{てき}・惻^{そく}隱^{いん}の心あり。交^{まじわり}を孺子の父母に内^いるる所以^{ゆえん}に非ざるなり。誉^{ほまれ}を郷^{きやう}党^{とう}・朋友^{ほうゆう}に要^{もと}むる所以^{ゆえん}に非ざるなり。其の聲^{こゑ}を惡^{にく}んで然るに非ざるなり。是によりて之を觀^みれば、惻隱の心無きは、人に非ざるなり。辭^じ讓^{じやう}の心無きは人に非ざるなり。是非^{ぜいひ}の心無きは、人に非ざるなり（『孟子』公孫丑）。

曰く、王、堂上に座す。牛^{ひき}を牽^ひいて堂下^{いづこ}を過^ゆぐる者有り。王、之を見て曰く、「牛、何^{なん}に之^{これ}く」と。對^{こた}へて曰く、「將^{まさ}に以て鐘^{かね}に斃^{ころ}せんとす」と。王曰く「之を舍^{はな}け。吾其^{こゝそく}の穀^{こく}觶^{そく}若^{じやく}として、罪無くして死地に就く

に忍^{しの}びず」と。對^{こた}へて曰く、「然らば則ち鐘に斃^{ころ}ることを廢せんか」と。曰く、「何ぞ廢す可^べけん。羊を以て之に易^かへよ」と。織^おラズ諸^{しよ}有りや」と。曰く、「之有り」と。曰く「是の心以て王たるに足る。百姓は皆王を以て愛^{あい}めりと為^なすも、臣は固より王の忍^{しの}びざるを知るなり」と。……曰く「傷^やむ無きなり。是乃ち仁の術なり。牛を見て未だ羊を見ざればなり。君子の禽^{けい}獸^{じゆ}に於けるや、其の生を見ては其の死を見るに忍^{しの}びず。其の聲^{こゑ}を聞^ききては其の肉を食^くふに忍^{しの}びず。是を以て君子は庖^{ほう}厨^{ちゆう}を遠^{とほ}ざくるなり」と（『孟子』梁恵王）。